

平成31年3月 データから見た業界の動き

■ 概 況

3月の山梨県内のD I値は、全体で売上高は14ポイント（対前年比+22）、収益状況は▲8ポイント（対前年比+4）、景況感は▲8ポイント（対前年比+4）となり、対前年比、前月比でいずれの値も改善した。

製造業では、対前年比で売上高は5ポイント改善したのに対し、収益状況は変わらず、景況感15ポイント悪化した。印刷業では用紙をはじめ、インキ代又は輸送コストが増加、価格転嫁を求めていくとの報告があり、窯業・土石業界では骨材需要が高まっているが、燃料費や人件費の高騰により収益を圧迫しており、繁忙期でありながらも収益に結びつかないとの報告が多い。また、工作機械部品加工業界では米中の貿易摩擦の影響から今後の受注を懸念する声も報告されている。

非製造業では対前年比で売上高は34ポイント改善、収益状況は変わらないが、景況感10ポイント改善した。

製造業同様に、米中の貿易摩擦の影響により中国の景気に減速感があり、総じて取引が減少傾向にあるとの報告があった。特に古紙、ジュエリー、宿泊・運輸業界では米中貿易摩擦の影響が顕著に感じられている様子であるが、建設業を中心に工事量はほぼ前年比並みの受注高が確保でき、3月期については売上高及び景況感の回復に結びついていると思われる。

一方、人手不足は全ての業種・業界で課題とされており、さらに原材料費・人件費等の経営コストの上昇傾向は引き続き強く、値上り分を適正に価格転嫁できるかどうか収益に大きく影響している状況。消費増税による景気の減速、働き方改革への対応が急務とされ、中小企業者は先行きに不安を抱えたまま新年度を迎える。今後も中小企業・小規模事業者を取り巻く環境を引き続き注視していく必要がある。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係、業務用関係（ホテル・レストラン・居酒屋向け）とも特に目立った動きは無く全体売上高は前年同月比100.4%であった。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の量販店向けは前年並みだが、専門店向け及び輸出向けが低調で前年比93.8%。OEMは冷凍ケーキが低調であったが焼き菓子が好調で、99.5%。全体では前年同月比96.2%。
食料品（麺類製造）	4月から商品の値上げを行う予定。
食料品（酒類製造業）	12月のTPP、2月の日欧EPA発効によるワイン業界への影響は甚大であり、国産ワインは消費量が伸び悩んでいる。
繊維・同製品（織物）	オリジナル傘地の注文は出てきてはいるが、OEM生産の傘地は時期（雨期）ではないため動きは乏しい。

家具製造	繁忙期のため稼働率は高いが、前年比では売上は5%減少している。
印刷・同関連業	印刷用紙の大幅値上りによる影響が大きい。その他にも運賃・インキ代の値上りを適正に価格へ転嫁をさせられるように努めていく。
窯業・土石（砂利）	骨材需要はあるものの、経費増加により収益が圧迫されている。当面はリニア中央新幹線関連工事の進捗によるところが大きい。新たな公共工事の増加に期待している。
窯業・土石（山碎石）	対前年比では売上高は16%増加したが、年度の推移でみると11月以降連続して碎石の出荷量が減少している。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	例年通り3月は生産調整が行われた。
鉄鋼・金属 （金属被覆・彫刻業・熱処理業）	半導体関連、IT関連の受注の減少と米中貿易摩擦の影響から輸出の減少が進む。消費税増税への影響もあり更に厳しい状況は続くと考えている。
一般機器 （工作機械部品加工業）	米中貿易摩擦の影響により売上高が減少。
電気機器 （工作機械部品加工業）	半導体関連の受注量の減少から、半導体製造機械部品加工業者間の競争が激しい。
宝飾（研磨）	3月香港ジュエリショーが開催され、出店した組合員の多くは売上高で前年同月比は減少した。

● 非製造業

卸売（紙製品）	古紙市場の中国の輸入制限が行われ、国内古紙の在庫が増加しているから、価格の低迷が続いている。
卸売（ジュエリー）	3月香港ジュエリーフェアの売上は不十分であった。4月の甲府ジュエリーフェアの来場者数・売上が心配である。
小売（食肉）	豚コレラの影響から、前年と比較し相場は高めとなっている。今後夏場に向かい高騰が予想され、収益を圧迫する恐れを懸念している。
商店街	大月駅北側のホテル建設に伴う地元説明会では、ホテルはレストラン等を設けず、スタッフも地域の住民を雇用するなど地域社会との連携を明言している。今後は周辺から大月に集客ができるような大月を活性化する取り組みを検討していく。
宿泊業	3月上旬は空室が多かったが、中下旬は暖かさと外出しやすい気候、春休み等の影響から満室が増えた。4月は信玄公まつりや、GWの前半もあるため期待している。
美容業	卒業・入学式等で売上が増加したが、低料金店舗へ固定客が流出している。
警備業	警備員不足が取引先に浸透し契約条件の改善が進んでいる。処遇改善による警備員の賃金引上げが影響し収益状況は改善しない。また警備員不足の解消をどのように図るかが課題である。
建設業（総合）	3月の県内公共工事動向は、前年同月比に比べ件数は37%増加し、請負金額は10%減少している。3月末累計では、件数で3%、請負金額は1%の増加と前年と同水準で留まっている。
建設業（型枠）	3月以降夏までは学校・体育館・図書館などの教育施設の公共事業やホテル・マンションなどの民間工事が予想されているが、秋以降の仕事量は少ないと思われる。

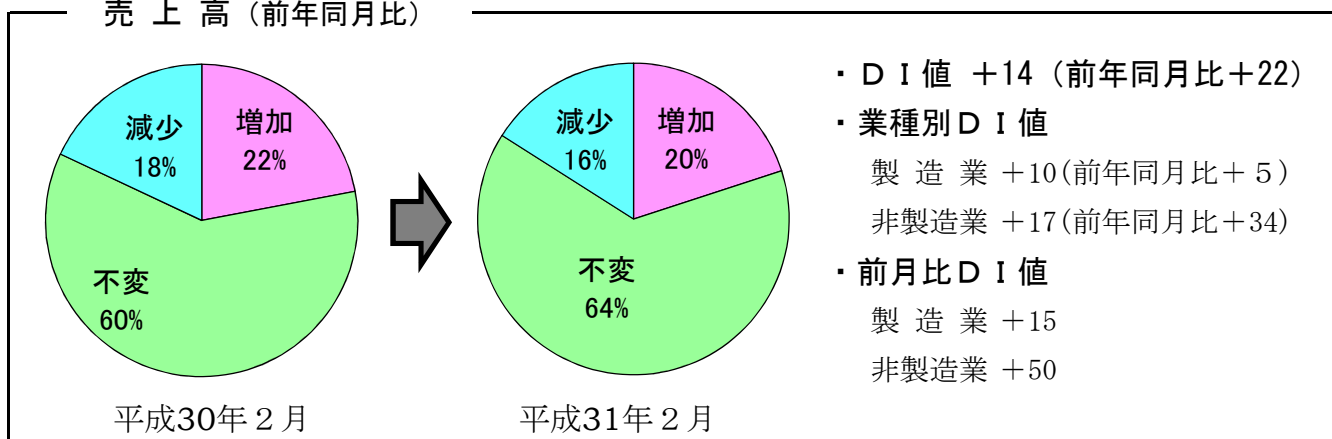
建設業（鉄構）	首都圏の物件に依存する傾向が続いている。鋼材等の入手難により受注を控える傾向があり、稼働率にバラつきが生じている。
設備工事（電気工事）	公共工事は国・地方とも前年度割れの状況。民間工事は改築・増築などの小型案件で堅調だが、他に回復要素が見られず、難しい経済動向である。
運輸（タクシー）	企業等の異動による送別会が行われ売上は増加したが、乗務員不足が経営に影響を及ぼしている。
運輸（バス）	外国人利用客が激減した。燃料の高騰と人手不足が課題である。
運輸（トラック）	労働条件の改善による人件費上昇分を運賃に転嫁できていない

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

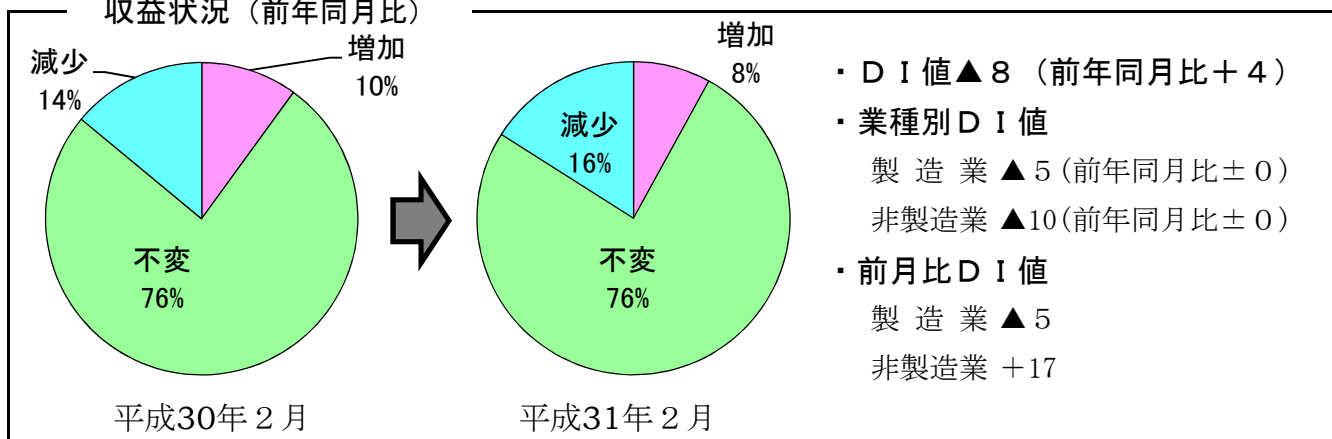
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2018/3	2019/2	2019/3	2018/3	2019/2	2019/3	2018/3	2019/2	2019/3
売 上 高	5	-5	10	-17	-33	17	-8	-22	14
収 益 状 況	-5	0	-5	-10	-27	-10	-12	-16	-8
景 況 感	0	-15	-15	-13	-13	-3	-12	-14	-8

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

